

保育現場に於ける保育者のリトミック指導力向上の必要性 III

平松 なをみ

こども健康学科

Improving Eurhythmics-Based Leadership Skills of Nursery Teachers

Nawomi HIRAMATSU

要 旨

リトミック指導に必要な即興演奏技術の向上を図るため、著書「第一巻『リトミック』基礎演習」に続き「第二巻『リトミック』楽典応用編」を作成した。昨年に続き、本学こども健康学科2.3年生の授業「幼児音楽」にて使用し、リトミック音楽表現の実践を伴った授業プログラムを展開した結果、学生たちの心と身体の調和を促し、表現力を引き出すことができた。そして、これらは自発的な即興演奏に繋がった。2017年4月よりリトミック授業を行っている「K. こどもえん」での保育者の子供への働きかけをみても、リトミック指導力向上には、表現力を高めることが必要と考えられた。

キーワード：幼児音楽、表現、リトミック、即興演奏

Abstract

In order to improve the improvisational skills required in Eurhythmics teaching and leadership, we previously published two textbook volumes describing the Eurhythmics Basic Exercise [1] and Eurhythmics Musical Grammar Application. Continuing from last year, we applied the second volume in a lecture titled "Early Childhood Music" given to the 2nd and 3rd grade students. The lecture was conducted with an emphasis on the Eurhythmics music expression exercise which equipped the students with a harmonious mind and body expression. This accordingly resulted in an enrichment and enhancement of their expressability and led to their spontaneous improvisation. Looking also at the activities of the K Kodomoen nursery teachers who have been conducting Eurhythmics classes since April 2017, it was confirmed that it was necessary to improve their expressive skills in order to improve Eurhythmics teaching skills.

Keywords : Early Childhood Music, Expression, Eurhythmics, Improvisation

[1] "Improving Eurhythmics-based Leadership Skills of Nursery Teachers", 2017

[2] "Improving Eurhythmics-based Leadership Skills of Nursery Teachers", 2018

1. はじめに

前稿では、第1巻『リトミック』基礎演習を作成し、本学こども健康学科1年生の「音楽基礎演習」授業において使用した。第1巻は保育者のリトミック指導力における重要課題である即興演奏技術力向上の教本であり、使用結果は顕著であった。リトミック音楽表現の実践は、学生にとり新鮮なものであり、楽しみながら様々な音楽要素を体験することができた。音楽を聴きながら身体を動かすことによりリズム感覚を目覚めさせ、聴覚を鋭敏にすることで音の感知・読譜記譜へと発展させていくことができた。

本稿では、第二巻『リトミック』楽典応用編を作成し、本学こども健康学科2.3年生の「幼児音楽」授業において使用し、成果検証した。ここでは音楽理論をより深め、即興演奏に繋がる技術を身につけることが出来た。

即興演奏への取り組みは、2017年4月より「K.こどもえん」においても行われている。保育現場の保育者によるリトミック授業は3年目を迎え、子どもも保育者も表現活動が自由活発になされてきている。そして、子ども達の集中力・判断力・想像力・創造力が高められ、自発的な表現が引き出されている。ここでの保育者の取り組み、筆者が行う指導者たちへのリトミック研修の成果を踏まえて、保育者養成校としての役割りを考える。

2. リトミック教育

スイスの作曲家・音楽教育家であったエミール＝ジャック・ダルクローズは、20世紀初頭に音楽と身体運動を融合させたリトミック教育法を創案した。リトミックは、音楽に反応して歌ったり、身体運動することで集中力・記憶力・判断力・想像力を高め、創造性や社会性を高める人間教育である。「リズム運動」「ソルフェージュ」「即興演奏」の主要な3つの柱を連動させながら、全身で音楽を理解し、創造的な活動がなされることを目的とする。

3. 第二巻『リトミック』楽典応用編を使用した授業報告

本学こども健康学科2.3年生の「幼児音楽」授業においてリトミック音楽表現の実践を伴った授業プログラムを展開した。第一巻での成果を踏まえて作成された教材の目次に沿って検証していく。



も く じ	
第 1 章	第 3 章
音程 1	和音 コードネーム 29
音程 2	和音 (コード) 30
音程ワーク【半音】 5	コードネーム 32
音程ワーク【度数-その1】 6	和音ワーク-その1 33
音程ワーク【度数-その2】 7	和音ワーク-その2 34
音程ワーク【度数-その3】 8	和音ワーク-その3 35
音程ワーク【音程】 9	和音ワーク-その4 36
リトミックワーク【音程】 10	コードネームワーク-その1 37
	コードネームワーク-その2 38
	リトミックワーク【コードネーム】 39
第 2 章	第 4 章
音階 調 11	リズム 43
音階 (スケール) 12	リズムトレーニング3 44
調 14	手順に関して 46
音階ワーク【長音階・短音階-その1】 17	リズムトレーニング4 47
音階ワーク【長音階・短音階-その2】 18	様々なジャンルのビート 49
音階ワーク【長音階・短音階-その3】 19	ボディパーカッション 51
調ワーク【五度圏-その1】 20	リズムとことばワーク-その1 52
調ワーク【五度圏-その2】 21	リズムとことばワーク-その2 53
調ワーク【移調-その1】 22	リズムとことばワーク-その3 54
調ワーク【移調-その2】 24	記号ワーク-その1 55
リトミックワーク【音階-その1】 26	記号ワーク-その2 56
リトミックワーク【音階-その2】 27	
リトミックワーク【調】 28	
	付属資料
	強弱記号 速度記号 反復記号 58
	曲想に関する記号 59

第1章 音程

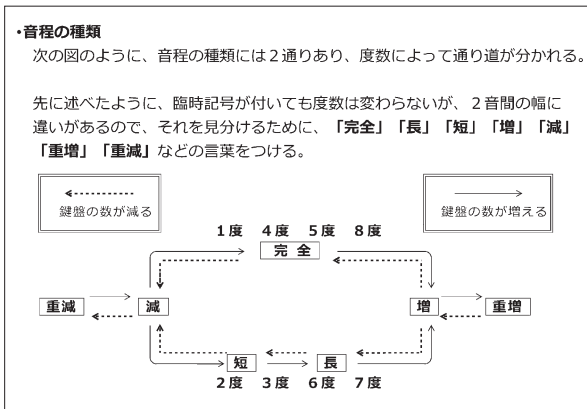
音程は音階、和音を構成するものであり、音楽の仕組みを理解する上でとても重要なものである。

まず、隣り合った2音の関係(全音・半音とよぶ)を知らなくてはならない。楽譜に書かれた音符から、この2音の関係を知るには音の高さを、声を使って歌うことが効果的であると考えた。また、身体で音の高さや関係を表現することにより内的聴覚が訓練され、その結果、身体と心に記憶された音のイメージは、記された音符を見ただけで再現されると思われた。

学生たちに2音の関係を感知してもらうために行われたアプローチを記す。

- (1) 半音と全音を同時に鳴らしたときの響きの違いを聴き分ける聴力を訓練する為に
 - ・半音の響きが聴こえたら机を叩く→全音の響きが聴こえたら起立する
- (2) 2音の音の幅を認識する為に
 - ・連続して聴こえる2つの音を聴き取り、再現して歌いながら合わせた手のひらを動かす。
半音の時は少しだけ手のひらを広げる→全音の時は手のひらを半音の時の倍に広げる。

というゲームを行なった。その結果、学生は「全音の音の幅」は「半音の倍」であることを理解した。その後、音符を見ると「歌う」という行為が見られ、同時に身体が自然と動いている姿も見られた。ピアノ演奏技術が充分身につけていない学生は読譜もままならず、音符と鍵盤の関係も曖昧であったが、ソルフェージュの学習をすることにより、全身で音楽理論を理解することに至った。



半音と全音を基本に様々な音程が存在する。2音の音の高さを「2度」と表し、その関係が半音ならば「短2度」全音ならば「長2度」と表す。音の高さは1~8度まであり、2音間の音の幅には、完全・長・短・増・減・重増・重減がある。(図-1) これらは音階や和音を構成するものであり、即興演奏や移調するときの手助けとなる。

第2章 音階・調

音階は「半音」と「全音」の位置によって決まる。音階の開始音とそれが長音階なのか短音階なのか、また、短音階の中でも自然短音階なのか和声短音階なのか、旋律短音階なのかにより様々な音階が存在する。(図-2) 長音階と短音階だけでも異名同音(D#とレbなど)音階を入れると30種類がある。この他にも全ての音の幅

が「全音」で構成されている全音音階や、全ての音が「半音」で構成されている半音音階がある。これらの音階は即興演奏や移調奏を行う為に必要な理論であり、調の相互関係も明らかになる。多種多様な音階を覚えるにはソルフェージュの学習と鍵盤による学習が効果的だと考えた。

音階 (スケール)

ある音から1オクターブ上の同じ音に達するまでの音を、特定の決まりに従って順序よく記列された音列を音階という。

・音階の種類
音階の種類には様々なものがあるが、よく使われるものを次にあげる。

長音階 長音階は「全音 全音 半音 全音 全音 全音 半音」の順で成り立っている。Do (I) を始まりの音として長音階を作ると次のようになり、「八調長音階」または「八長調の音階」と呼ばれる。

音階のそれぞれの音には、音階上での機能を表す名称がつけられている。ここでは特に重要な i iv v vii の音の呼び方をあげておく。

- i** 主音 (しゅおん)・・・音階の開始音
- iv** 下属音 (かぞくおん)・・・主音から完全5度下行した音
- v** 属音 (ぞくおん)・・・主音から完全5度上行した音
- vii** 導音 (どうおん)・・・主音と短2度の関係にあり、主音に導く音

短音階 短音階は「全音 半音 全音 全音 半音 全音 全音」の順で成り立っている。Do (I) を始まりの音として短音階を作ると次のようになり、「八調短音階」または「八短調の音階」と呼ばれる。

※ この音階のvii音は次の主音との関係が長2度になっているので、導音ではない。

3つの短音階
上記の音階は短音階の原形となる音階で**自然短音階**という。この自然短音階には導音がなく終止感に欠ける。そこでvii音を半音上げて導音とし、終止感を強めた。これを**和声短音階**という。和声短音階ではvi-viiの音程が増2度となる。これは旋律として歌いにくいので、vi音を半音上げて歌いやすくなった。これを**旋律短音階**という。しかし、旋律が主音から下行する時は、vi音、vii音が半音上がらなくても特に歌いづらくないため、旋律短音階は下行する時は、自然短音階を使う。

(下行形は自然短音階)

図-2 P12.13

学生達の、「音階」とそこから派生する「調」の理解を深める為に行われたアプローチを記す。

- (1) 音階の構成音を感知する為に
 - ・演奏された音階を心的聴取した後、階名を使って歌う
- (2) 長音階と半音階の違いを感知する為に
 - ・長調と短調の音階を使用した音楽を聴取しながら身体表現をする
 - ・身体表現しながら聴取したメロディーを「ラララ」で歌う
- (3) 音階に含まれる「半音」「全音」の位置を明確にする為に
 - ・ハ長調の音階を使用し、半音の箇所のみ腕を動かして歌う。この時の腕の動きは学生のイメージに任せる。音階が上行している時と下行している時とで、腕の運動表現を変えても良い。
- (4) 「半音」「全音」の位置を様々な調において明確にする為に
 - ・はじめにハ長調の音階を歌う
 - ・ハ～一点ハマまでの1オクターブの音域の中で、指定された「半音」箇所を意識して階名で歌う。半音箇所は調号に合わせて設定する。
- (5) 楽譜に記された音符を歌う為に
 - ・楽譜に記された音符を見て、先に内的聴取した音のイメージを再現しながら階名唱する
- (6) 楽譜に記された音符と音色、鍵盤の位置との一致を体得する為に
 - ・電子オルガンで音を出す
- (7) 即興演奏の為の準備として
 - ・音階を移調して弾く (図-3)

結果、学生は「半音」の位置を確認でき、様々な音階を理解した。身体表現で得られた筋肉組織の記憶と心的聴取で得られた音のイメージを歌唱することは、楽譜に記された音符を見て理解するより有効であった。ソルフェージュの学習により聴取力が高まると、楽器演奏もスムーズにできる様になり、演奏技術の向上に繋がった。

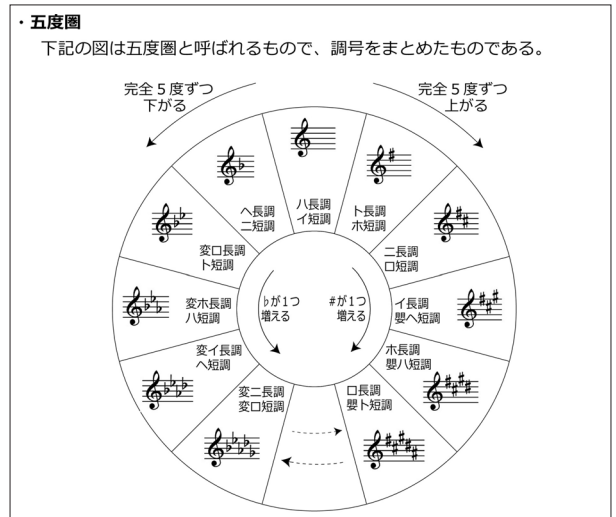


図-3 P16

第3章 和音

音を決定づける様々な和音の種類と音楽の響きを追求する。和音とは、3つ以上の音を同時に鳴らしてできる響きをいう。3つの音を3度音程を保って重ねたものを「3和音」。3和音の上にさらに3度音程を重ねたものが「4和音」である。和音は主に伴奏に用いられる。「和音」は音階に属すると響きの性質が変わる。(図-4) これらは即興演奏に欠かせない要素である。和音の理解は身体表現を伴い、聴取力・想像力・創造力を育成しながら楽器による演奏を実践することでさらに深まると考えた。

音階上の和音の呼び方
 音階の i、ii、iii・・・の上にその音階に属する音を使って三和音を作ることが出来る。それらの和音は I、II、III、IV、・・・のように書かれ、「I度の和音」、「II度の和音」のように呼ぶ。

ハ長調

ト長調

ハ短調 (和声短音階)

主要三和音
 音階の主音上に作られる三和音を「**主和音**」、下属音上に作られる三和音を「**下属和音**」、属音上に作られる三和音を「**属和音**」といい、三和音の中でも重要で、よく使われるので、**主要三和音**という。

主要三和音の性質
 主和音 (I度の和音)・・・安定した和音で、メロディーの始まりや終わりに使われる。
 下属和音 (IV度の和音)・・・曲を盛り上げ、豊かな響きにする。
 属和音 (V度の和音)・・・緊張した和音で主和音に戻ろうとする。

属七の和音
 音階の属音上に作られる四和音を「**属七の和音**」といい、属和音よりさらに緊張感が増し、主和音に戻ろうとする性質が強くなる。

図-4 P31

コードネーム

和音（コード）を音符ではなく、アルファベットや数字を用いた記号で表したものを**コードネーム**と呼ぶ。コードネームのアルファベットは英語音名で表され和音の構成によって表記の仕方が変わってくる。以下に代表的なコードネームをあげておく。

 <p>G 「ジー・メジャー」</p>	<p>根音が「G」であり、長三和音であるメジャーコードなので、ジー・メジャーと呼ばれるが、一般的には「G」と表記することが多い。</p>
 <p>Gm 「ジー・マイナー」</p>	<p>根音が「G」であり、短三和音であるマイナーコードなので、ジー・マイナーと呼ばれ、根音の英語音名の右隣に小文字の「m」を付け加えて表記する。</p>
 <p>Gaug 「ジー・オーギュメント」</p>	<p>根音が「G」であり、増三和音であるオーギュメントコードなので、ジー・オーギュメントと呼ばれる、根音の英語音名の右隣に小文字の「aug」を付け加えて表記する。</p>
 <p>Gdim 「ジー・ディミニッシュ」</p>	<p>根音が「G」であり、減三和音であるディミニッシュコードなので、ジー・ディミニッシュと呼ばれる、根音の英語音名の右隣に小文字の「dim」を付け加えて表記する。</p>
 <p>G7 「ジー・セブン」</p>	<p>根音が「G」であり、属七の和音なので、ジードミナントセブンスコードになるが、ドミナントは略してジーセブンと呼ばれることが多い。根音の英語音名の右隣に「7」を付け加えて表記する。</p>

図-5 P32

学生達が、和音構成の仕組みと響きを知る為に行われたアプローチを記す。

- (1) 3和音の音の構成を知る為に
 - ・3人一組になり、それぞれが和音の構成音である「根音」一番低い音・「第3音」真ん中の音・「第5音」一番高い音を担当する。演奏される和音を聴取し自分が担当している音を階名で歌いながら手に持ったスカーフでその音の高さを示す。演奏は和音を分散させたものであったり、3つの構成音をランダムに演奏したりする。
- (2) (1) 同様に4人一組になり、4和音でも行う
- (3) 音階に属する主要3和音の性格を知る為に
 - ・「主和音」が聴こえたら机を叩く
 - ・「下屬和音」が聴こえたら両手を上に挙げる
 - ・「属和音」が聴こえたら足で床を鳴らす
- (4) 和音の役割を知る為に
 - ・様々な和音を自由に連結し、電子オルガンで演奏する
 - ・自由な和音連結の最後を、終止を感じさせる安定した和音に設定する
 - ・『キラキラ星』のメロディーに伴奏をつけ演奏する (図-5)

結果、ここでもソルフェージュの学習とリトミック身体表現の実践が効果的であった。和音の理解は、毎年、教師も学生も苦しむところである。「和音の種類と名称」や「音階の中での和音の性格と役割」は、紙面上での理解だけでは不十分である。そのことから、身体表現を行ったところ、音の響きの聴取と身体表現がもたらす和音の理解は、学生たちの心を満足させ、音楽が喜びや癒しを与えるものであることをも感じていた。ピアノ演奏することを苦手としている学生たちは、楽器の前に座るだけで緊張する。楽譜に記された音符を正確に弾きこなすことより、鍵盤を触り様々な音の組み合わせを楽しみながら、自分が好む和音を見つけて伴奏に使うことは個性豊かな即興演奏に繋がった。

演奏方法として、和音そのものを連結したり、和音を単体で鳴らすのも良い。また、和音の根音だけを鳴らしたり、和音を分散演奏したり、アルペッジョにしたりすると、様々な響きの伝わり方が感じられる。それにペダルを用いて演奏することで響きの幅が広がる。

第4章 リズム

リズムは拍や拍子の中に作られるものであり、限りなく提案されるリズムは「時間」と「空間」と「エネルギー」を持って感動を与える。日常話している言葉にもリズムやテンポがある。それらを音符で書き表したり、記された音符のリズムから言葉のリズムをイメージすることによりリズムの理解が深まると考えられた。心と身体で体感したリズムは深く記憶される。

これまでに音の響きによるハーモニーを体験してきた。ここではリズムアンサンブル（合奏）の実践を行うことでリズムの楽しさを体感する。また、子どもの歌を様々なリズムに合わせて演奏することにより音楽の表情が変化する楽しさを体感できるのではないかと考えた。

学生たちがリズムの楽しさを味わいながら作曲に繋がるアプローチを記す。

- (1) リズム譜の読み取りを容易にする為に
 - ・楽譜に記されているリズムパターンに言葉をつける
 - ・言葉を唱えながらリズムを手で叩く (図-6)
- (2) リズムを楽しむ為に
 - ・リズムアンサンブル『ボディパーカッション』を体験する (図-7)
- (3) 様々なリズムがもたらす音楽の表情を体感する為に
 - ・『キラキラ星』をマーチ・サンバ・8-ビート・16ビートのリズムに合わせて演奏する

(4) 作曲を行う為に

- ・オノマトペや子どもが日常で使う言葉をリズム譜で書き表す
- ・書き出した言葉のリズムに音をつける
- ・作成された言葉のリズムによるメロディーに和音をつける
- ・作曲したものを発表する

結果、様々なリズムを日常の言葉をから見つける作業は楽しいようであった。各々が発表した言葉とそのリズムには学生の個性が現れていた。ボディーパーカッションは楽譜に書かれている指示だけでなく、学生自身が他に考えたものでも演奏してみた。そのことにより、学生の自主性や協調性が生まれ自由表現が出てきたことは、心も身体も解放されている状態にあると認識された。解放された心と身体は今後、音楽との関わりをより深め、音楽理論の理解の上に即興演奏技術の向上へ繋がるものであると思われた。

リズム トレーニング 4

～ EX 1 ～

16分音符を主としたリズムパターンです。(手順はオルタネートスティッキング)

歌いながら演奏してみましょう

休符は「す」と歌うと音楽の流れがスムーズになります

♩ = 60 ～

お昼に 食べたい アップル たんぼほ

今すぐ 食べたい パナナ スイカ

コロッケ リゾット トースト

すき焼き すぶた(酢豚) スノボー

あさって 晴れたら ショッピング / おいしい トースト 買えたら いいな

図-6 P47

ボディーパーカッション

自分の身体を楽器にして演奏してみましょう

♩ = 60 ～

1) 手を叩く(クラップ)

足で床をふむ

2)

3) ももを叩く

図-7 P51

リズムとことばワーク

- ・その1 (第二巻 P52) では、「オノマトペ」を使った『遊び歌』の創作を試みた。「オノマトペ」のリズムと音に振りをつけることで学生たちの表現力が増した。学生は保育現場で子どもと遊んでいる姿を想像し、子ども達がこの活動を楽しみ、全身で音楽を感じてくれることを予想していた。

ブー ブー (2分音符) ポコ ポコ (8分音符)

チュン チュン (4分音符) など

- ・その2 (第二巻 P53) では、3～4歳児の身近にある言葉を使って『こどもの歌』を作曲した。作曲したメロディーに和音を付けて弾き歌いをする。学生たちはこの創作により、リズムは日常生活のどこにでも存在することに気づいた。また、和音の響きを考えて自分が表現したい音楽を模索した結果、自然と音楽理論が成立していた。

- ・その3(第二巻P54)では、「わらべうた」を楽譜に表し、和音を付けるワークをした。その結果、「わらべうた」に使われる音は単純で音域が狭く、幼い子どもでも容易に歌えることが分かった。和音による伴奏も単純で、伴奏が無くても楽しめることに気づいた。学生はこの学習を発展させ、何種類かの「わらべうた」をグループに別れて身体の動きを付け歌うことをした。何種類かの「わらべうた」を同時に歌っているにもかかわらず、その響きは心地よく、日本の調べの美しさを全身で感じる体験が出来た。

4. 授業の振り返り(シート)のまとめ

- (1)「リトミック」を経験したことで
 - ・音楽の楽しさを覚え、音を聴き受け止め、それを自分自身で身体表現することを覚えた
 - ・リトミックの身体表現は楽典の理解を深めることを容易にさせた
 - ・他者の表現を共有することで、協調性・表現力を高めることが出来た
- (2) 学生達は楽典の理解を深めることにより
 - ・音楽要素を用いて、ひと工夫することの重要性も身に付けた
- (3) 即興演奏について
 - ・リズム・和音・音階・調性についてはオノマトペの学びを生かし、高度なピアノ技術のみならず、2・3音でも自由に表現できることを覚えた
 - また、即興演奏は楽器に限らないことを知った
 - ・自由に表現するには保育者の内面が重要であると感じた
- (4) 保育現場で活かせると思われること
 - ・リトミックは、子どもが言葉を話せなくても、歌うことが苦手でも、感性を育てることにより十分に楽しめる
 - ・自分が音楽の楽しみを知ることにより、子どもにも好きな表現方法で楽しむことを伝えられる
 - ・人間が生きていく中で必要な諸能力を養うことが出来る

以上は、授業で「リトミック音楽表現の実践」をしたことにより、学生達の想像力・創造力・表現力が育成され、楽典の理解の上に即興演奏を怖れず楽しんでいたことが分かった。また、リトミック指導者としての立場が考えられるようになってきていることも明らかになった。

5. 「K.こどもえん」リトミック授業より

2017年4月より「K.こどもえん」にて、保育者によるリトミック授業が行われてきた。この中で課題となったのが「指導者の即興演奏」であった。子ども達の発想が溢れてくる中、保育者は場面に合った即興演奏をすることに困難を感じたり、懸命にやろうとするばかりに、子ども達が疲れてしまうことがあった。リトミック指導者には、子どもの発想を受け止め、瞬時に音楽表現に持っていく為の言葉かけと即興演奏が求められる。これには、保育者自身の発想力・想像力・創造力・表現力が必要であると考えられる。

この課題を解決する為に、筆者は「保育者の為のリトミック研修」を開いた。はじめに、保育者たちは「リトミック」を体験することで、音楽に反応しながら身体を動かすことがどれほど喜びと感動を与えるものであるかを体験した。そして、この経験により、保育者達の想像力・創造力・表現力が増した。次に、音楽は子どもの生活環境に溢れていることを知り、それらを発見・聴取・模倣・再現することを楽しんだ。この経験から、さらに、発想力・創造力・表現力が深まった。最後に、経験からイメージしたものを即興で再現した。これには、身体や打楽器、鍵盤楽器が使用された。その結果、演奏技術はさほど必要ではなく、それよりも自らが想像することを楽しみ自由に表現することが大切であることに気づいた。そして、これまでの型にはまった音楽から開放され、即興演奏を楽しんでいた。子ども達の身近にいる保育者は音楽が好きであり、発想力や表現力に満ちているべきである。子ども達が生き生きと自由な身体表現活動をする姿に音楽を付け、ともに音楽を楽しむ指導者としての資質の向上が問われているといえよう。

6. おわりに

保育者養成校の役割を考える時、学生たちの自主性・集中力・発想力・想像力・表現力・創造力を育成することが大切だと考えられた。これらは、人間形成の基礎となるものであり、リトミック指導者としてだけでなく、全ての分野において必要とされる資質である。保育現場は子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う場であることから、保育者の人間性が問われる。子どもが様々な体験を通して豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う為の音楽教育として、保育現場にリトミックを取り入れることは効果的であることが明らかになった。生き生きとした即興音楽で子ども達に寄り添い、保育者自身がそのことを楽しめるようになることが、リトミック指導者には必要だと考える。

本校では、ピアノ演奏技術習得の為の授業として、バイエルやソナチネのピアノ曲などを弾かせているが、これらは就職試験対策に他ならない。これよりも、子どもに寄り添う音楽の使い方が出来る保育者を養成するには、「こどもの歌」を中心とした、レパートリーを広げる学習や、即興的なコード奏法が出来るように、メロディーに対する和音の使い方や表情を豊かにする伴奏の形を学ぶことの方が現実的であると思われた。

第二巻『リトミック』の教材を使用した結果、学生自ら音楽を創り出す喜びを感じる事が出来るようになった。リトミック音楽表現の実践を伴い展開された「第二巻」の成果は顕著であった。保育者として保育に当たる際、脳の中でイメージした音楽を子ども達の前で表現してみせることを楽しめる者となることを期待する。

この後、「第三巻」を作成し、即興演奏を使ったリトミック指導案の作成を促していきたい。そうすることで、保育現場での実践がより身近なるよう繋げていきたいと考えている。

謝 辞

本研究を進めるに当たり、ご協力いただきましたKYONARO MUSIC STUDIOの高橋民恵先生、藝樹音楽の森の平松浩一郎先生には厚く感謝を申し上げます。

参考文献

- ①板野平「リズムと音楽と教育」全音楽譜出版 1978年
- ②エリザベス・バンドレスパー「ダルクローズのリトミック」ドレミ楽譜出版 1996年
- ③日本ダルクローズ音楽教育学会「リトミック実践の現在」開成出版 2008年
- ④日本ダルクローズ音楽教育学会「ダルクローズ音楽教育研究」通巻、第40号2015年、第42号2017年、第43号2018年
- ⑤田中まさ子「幼稚園・保育実習ハンドブック」(株)みらい 2015年
- ⑥今泉明美/有村さやか編著「子どものための音楽表現技術」萌文書林 2018年
- ⑦板野和彦「ユニバーサルデザインの音楽表現」萌文書林 2018年
- ⑧平松なをみ/高橋民恵/平松浩一郎共著 第二巻「リトミック」楽典応用編 ケイプラス出版 2019年